様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：２３５０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００９　～２０１１
課題番号：２１５２０２６８
研究課題名（和文）「分離独立文学」を素材とする南アジア英語文学の総体的把握

研究課題名（英文）　A COMPREHENSIVE STUDY OF SOUTH ASIAN WRITING IN ENGLISH WITH SPECIAL REFERENCE TO PARTITION LITERATURE

研究代表者
大平　栄子（OHIRA　EIKO）
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号　20160616

研究成果の概要（和文）：現在までに出版されているインドとパキスタンとの分離、および、パキスタンとバングラデシュとの分離を扱う分離独立文学テクスト、それに関連する映画・テレビドラマ、民謡などを網羅的に収集・分析し、分離独立文学の全体像を明らかにした。「分離独立」という視座から南アジア英語文学を総体的に把握することを目指し、今回の研究により、南アジア英語文学の体系的把握に向けた第一歩を踏み出すことができた。

研究成果の概要（英文）：I COULD COLLECT AND ANALYSE ALL THE INDO-PAKISTANI AND PAKISTANI-BANGLADESHI PARTITION WRITING IN ENGLISH AS WELL AS PARTITION FILMS, TV DRAMAS, AND FOLK SONGS. CONSEQUENTLY I COULD GRASP THE FULL EXTENT OF PARTITION LITERATURE IN SOUTH ASIAN COUNTRIES. THE PURPOSE OF MY RESEARCH IS TO SYSTEMATIZE SOUTH ASIAN ENGLISH LITERATURE STUDIES WITH SPECIAL REFERENCE TO PARTITION LITERATURE, AND I COULD TAKE A IMPORTANT STEP TOWARD IT.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学
キーワード：英語、文学、南アジア

１．研究開始当初の背景

（１）申請者はインドのデリー大学大学院客員教授としてインドに滞在し始めた 2000 年 12 月からインド英語文学に関わる資料収集を進めてきた。さらに、この問題に関する関心を深め、個人的に研究を進めるとともに、問題関心を共有する内外の研究者と連携をとりつつ、共同研究を遂行してきた。

（２）2001 年から 2008 年まで毎年夏期に分離独立に関して、デリーおよびマニプール州インパルにおいてナガ族の人々からの聞き取り調査を行なった。

（３）『沈黙の向こう側　インド・パキスタン分離独立と引き裂かれた人々の声』の著者であるウルワシー・ブタリア氏やデリー大学英文学科教授のマラシュリ・ラル氏や、ジャミアミラ・イスラム大学教授のアロク・バラ氏、ダッカ大学のニアズ・ザーマン教授と研究の打ち合わせ、意見交換をし、研究協力について依頼し、快諾をえた。

２．研究の目的

（１）南アジア英語文学の重要なテーマの一つである「分離独立文学」に焦点を合わせて研究を遂行することにより、南アジア英語文学の体系的把握とその文学史上の位置づけに向けての第一歩を踏み出すことを目的にしている。

（２）現代史上最悪の悲劇の一つである分離独立文学の総体的把握を試みると共に、女性問題でもある印パ分離独立について、ジェンダー研究の視点などと関連づけることによって、方法的な面からもこの分野の研究の深化を図ることを目ざしている。

（３）分離独立という共通の体験をめぐる、多様で相対立する視点が交差する南アジア英語文学を総合的に検討することによって、宗主国--旧植民地という平板な視座から把握されがちな既存のポストコロニアル文学研究に対する方法上の新たな問題提起を試みることを目的にしている。

３．研究の方法

（１）現在までに出版されている分離独立に関わるテクスト、関連する映画・テレビドラマ・民謡などを網羅的に収集し分析を加えることによって分離独立文学の全体像を把握する。

（２）分離独立に関する最新の研究書を集め、研究史の整理を行なう。

（３）分離独立についての体験者から伝えられた物語についての現地調査をおこなう。

（４）インドおよびパキスタン、バングラデシュの研究者との意見交換のためそれらの国々に一定期間滞在し、意見交換を行なう。

４．研究成果

（１）基礎資料の収集については次のような成果をあげることができた。従来の内外における研究では以下のような網羅的資料収集はなされてこなかったことである。

①現在までに出版されている分離独立文学テクストの全て、および映画、テレビドラマなどを網羅的に収集することができた。英語文学テクストのほか、地方語のテクストの中で英語に翻訳されたテクストについても収集できた。また、ベンガル祭やジャイプール文学祭でのみ上映された非売品の映画も収集することができた。さらに、ダッカにおいて、分離文学作者自身から、英訳されていないベンガル語によるテクストについて、その内容と背景について聞き取りをすることができた。

②分離独立文学以外のインド英語文学テクストについては独立後出版されたものを中心に網羅的収集することができた。指定カーストの問題をテーマにした入手しにくいテクストを作者自身から入手することができ

た。

③分離独立文学研究書については絶版図書を含め網羅的に収集できた。

④関連資料である、分離独立に関する歴史研究については最新の歴史研究を含め、代表的研究書を網羅的に収集できた。

（2）ダッカ、ラホール、デリー、等で分離独立についての体験者家族の物語について聞き取り調査を行い、独立後 60 年経過した現在においても分離の後遺症が見られること、バングラディシュにおいては、西パキスタンの優勢な言語であるウルドゥー語を国語とする政策へのトラウマが現代においてもみられることを確認した。

（3）この課題に関する代表的研究者たちと共同研究を行なった。23 年度においては、インド英語文学を代表するラビンドラナー・タゴール生誕 150 周年を記念する国際学会へ招聘された折（デリー、カルカッタ、コーチン）に、代表的分離独立文学研究者たちと意見交換することができ、南アジアにおける英語文学研究の現状について確認することができた。

（4）上記の資料の読解・分析および共同研究の結果、分離独立文学の全体像を把握し、問題点を整理することができ、南アジア英語文学の体系的把握に向けた研究の第一歩を踏み出すことができた。

①インドにおいては、アカデミズムからも 70 年代まで無視され続けてきた英語文学が世界的に認知され隆盛をきわめるのに呼応し、その研究も活況を呈しているにもかかわらず、体系的に全体を俯瞰できる状況には至っていないことを確認した。パキスタンにおける英語文学もいても同様である。バングラディシュにおいては、ベンガル語文学が中心であり、英語文学テクストの出版社も極めて少なく、翻訳についてもインドほどに活況を呈していない。インド英語文学についても名称・定義・出自などについての研究者間の議論には決着が付いていない状況である。今後の重要な課題としては、南アジア英語文学を世界文学、あるいはポストコロニアル文学を構成する有力な文学として位置づけるべきか否か、といった位置づけの問題がある。

②分離独立文学の総体を把握したした上で、それがインド、パキスタン、バングラデシュ英語文学全体の中においてきわめて重要な位置を占めることを確認した。また、分離独立研究が近年特に盛況になったにもかかわらず、その体系的研究はきわめて乏しい状況であることを確認し、その特質と課題を整理した。

③個別テクスト分析の結果以下のような問題点・課題が明らかになった。分離独立は女性問題であるため、被害者としての女性イメージに描写が集中するテクストが多いが、国家のアイデンテイティを維持するための道具として機能させられる現実に抵抗した女性の物語が乏しいこと、バングラディシュの独立をテーマとしたテクスト、が乏しいこと、今なお分離要求をしている複数の州の民衆の視点から分離独立を見たテクストが乏しいことなどである。

（5）以上の研究成果を毎年ハワイの人文学国際学会で発表し、内外に発信することができた。南アジア英語文学研究者としての視

点からタゴール文学を分析することを求められ、23 年度において、インド文学アカデミー、インド文化省、ベンガル・アジア協会主催のタゴール学会に招聘を受け、研究成果を発表することができた。それを契機にさらなる共同研究の申し出があり、南アジア英語文学の体系的把握へ向けた第一歩としての、インド英語文学研究書を仕上げ、5 月に出版予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　７　件）

① OHIRA EIKO, "Redeeming Bleeding: The Representation of Women in Githa Hariharan's *The Thousand Faces of Night*" (*Indian Journal of Gender Studies*. vol.19, No.1) 査読有, 2012, pp. 73-92.

② OHIRA EIKO, "Midnight's Children as a Bildungsroma: A Narrative of Failure" (*Illuminati: A Transnational Journal of Literature Language and Culture Studies*) 査読有, 2010, pp. 32-44.

③ OHIRA EIKO, "The Shadow Lines as Bildungsroman: 'The Clamour of the Voices Within Me." (*Hawaii International Conference on Arts and Humanities Proceedings*. 8) 査読有, 2010, pp. 833-43. http://www.hichumanities.org

〔学会発表〕（計　５　件）

①OHIRA EIKO, "The Encounter of the Two Asian Idealists" アジア協会主催タゴール生誕 150 周年記念国際タゴール学会、2011 年 11 月 23 日、インド、カルカッタ、アジア協会会館

②OHIRA EIKO, "Tagore's Vision of the Unity of People and the Harmony of the Universe through an Aesthetic" インド文化評議会主催国際タゴール学会、2011 年 10 月 11 日、インドデリー、インド文化評議会会館

③OHIRA EIKO, "Tagore and Japan" インド文学アカデミー主催国際タゴール学会、2011 年 2 月 26 日、インド、コーチン、マハラジャ大学

〔図書〕（計　２　件）

① OHIRA EIKO, "A Legacy of Estrangement in the "Middle of Nowhere." *Kiran Desai and her Fictional World.* Vijay K. Sharma and Neeru Tandon ed. Atlantic Publishers and Distributors. 69-84 頁, 2011.

② 大平栄子「血を流す身体と不妊-ハリハランの『夜の千もの顔』」,『現代インド英語小説の世界：グローバリズムを超えて』橋本槇矩,栂正行編著,鳳書房, 24－40 頁, 2011 年.

６．研究組織
(1)研究代表者
大平　栄子　(OHIRA　EIKO)
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：20160616